



安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第4号

きらきらEyeランド

JA 庄内みどり

発行：庄内みどり農業協同組合

協力：酒田農業技術普及課

天気の変化に要注意！ 適切な温度管理で健苗育成を！！

今年の播種作業は4月8日頃から始まり、12日頃が盛期になりました。

仙台管区気象台の1か月予報（4月9日発表）では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並からやや低い見込みです。但し、短時間の日照でもハウス内は高温になる為、遮光資材を活用しこまめに見回り、温度管理に細心の注意を払いましょう。

技、其の一 マルチの除去はタイミングを逃さずに！

○マルチ除去の遅れは徒長苗・ばか苗病の原因となります。

マルチ除去の目安	草丈 (cm)	葉齢 (葉)	○根の伸長を促進させるため灌水での覆土落としは控え、転圧ローラー等を使用しましょう。 ○マルチの除去後、1～2日間はダイオシートなどの遮光資材で温度を管理しましょう。 ○その後は徐々に換気を行い温度の上昇を回避しながら、なるべく日光にあてましょう。 ○覆土の持ち上がりや畝の露出しているところが見られた場合は直ちに手直しをしましょう。 (生育ムラ・高温障害に注意)
ハウス育苗 (マットの場合)	2.5 (3.0)	0.8 (1.0)	
トンネル育苗	3.0	1.0	

※雪若丸は、品種特性により苗の時点から短めで生育しますので、通常品種より1～2日程度遅らせてから、マルチを除去しましょう。

技、其の二 緑化期(1.5葉期まで)の温度管理に細心の注意を！

緑化期の温度が30℃を超えると高温障害はもちろん、徒長苗・ばか苗病の発生を助長します。また、低温に当たらないようにする必要があります。温度管理には細心の注意を払いましょう。

【緑化期の高温障害防止と低温対策】

- ①高温になりそうな好天日は、早めの換気操作でハウス内の温度上昇を防ぎましょう。
※ハウスを離れる際は、短時間でも遮光資材等を使用しましょう。
- ②高温時は、ホットンカバー等をベタ掛けし、マルチ下の温度上昇を防ぎましょう。
- ③低温のときは、遮光資材を使用せず、ホットンカバーをベタ掛けするなど、ハウス内の温度管理に努め、床土を冷やさないようにしましょう。
- ④温度計は必ず設置しましょう。設置場所については育苗箱のふちや、ベタ張りマルチには置かず、必ず床土に挿して温度を測るようにしましょう。

技、其の三 晴天日は早めの換気で最適な温度管理を！

○温度管理

日中は積極的な換気を行い、適温管理で充実度の高い苗に仕上げましょう。

苗の生育ステージ	最適温度	最高	最低
緑化期 (1.5葉期まで)	20～25℃	30℃	10℃
硬化期 (1.5葉期以降)	15～20℃	25℃	5℃

注① 高温での管理(27～30℃)は「ばか苗病」の発生を助長します。

注② マットでの育苗は、昼夜の温度較差が大きいと障害が発生しやすくなりますので、日中、高温管理とならないよう注意しましょう

※「育苗マット」の厚さが16mmから13mmに薄くなっています。

水分不足の場合、高温障害になりやすいのでご注意ください。

注③ ロング肥料は育苗期後半に徒長しやすくなります。

○水管理

- ・灌水は、1日1回、朝方(午前10時頃まで)に箱の底までタップリと行いましょう。
- ・曇りや雨の日は灌水を控え、床土が過湿状態にならないよう留意しましょう。
- ・育苗マットについては、培土よりも保水力があるので、水分状態を確認しながら灌水を行いましょう。(マットに水分がある場合は習慣的に灌水しない。)

○遮光資材の取り扱い

苗の根張りを良好にし、徒長を防止するため、マルチ除去後は遮光資材をできるだけ使用せずに日光を充分当てるようにしましょう。

ただし、育苗後半、換気を行っても温度が25℃以上になる場合は、一時的に遮光資材を活用して、適切な温度管理に努めましょう。

技、其の四 ロング肥料を使用していない場合は追肥が必要！

追肥時期		箱数	液肥2号		硫安	
稚苗	中苗		水量	現物	水量	現物
1.5葉期	2.0葉期	100箱 当たり	100ℓ	1ℓ	20ℓ	500g
2.0葉期	3.0葉期					

○硫安は葉ヤケをおこしやすいので、施用後すぐに葉身の水洗いを行いましょう。

○「育苗マット」は、初期葉色が淡く、少し生育が遅れる傾向が見られますので、早めの追肥(1.2葉期、苗丈4～5cm頃)で対応しましょう。

○床土に山土(購入培土)を使用している場合も葉色の出方が悪いときがありますので、早めの追肥で対応しましょう。



技、其の五 こんな症状が見られたらすぐに対策を！

障害・病害	発生時期	症状	対策
出芽不良	出芽時	出芽不揃い	活水(酸素供給剤) 50 倍液を 1 箱当たり 200 cc (3 日おきに) 灌注する。
リゾプス	出芽時 ～ 育苗前期	土の表面に 白いクモの巣状のカビ が発生する。	緑化が終了したら日光を当て殺菌する。 ダコニール 1000 の 1000 倍液を 1 箱当たり 500 cc 灌注する。(播種 14 日後まで)
フザリウム		地際部の鞘葉や根が褐変し ピンクのカビ がみられる。	タチガレン液剤又はタチガレエースM液剤の 500 倍液を 1 箱当たり 500 cc 灌注する。また、換気を十分に行う。
トリコデルマ		地際部や根の周辺に 緑～白のカビ が発生する。	ダコレート水和剤 500 倍液を 1 箱当たり 500 cc 灌注する。(播種 14 日後まで)
ピシウム	育苗後期	中期以降に発生しカビが判別しにくい。 茎が褐変し水浸状になる。	節水管理、夜間の保温に努める。 タチガレン液剤又はタチガレエースM液剤の 500 倍液を 1 箱当たり 500 cc 灌注する。
ムレ苗		床土に水分があるのに葉が巻いている。 根が褐変し水浸状になる。	活水(酸素供給剤) 50 倍液を 1 箱当たり 200 cc (3 日おきに) 灌注する。 回復まで、遮光資材と弱めの換気で温度管理を行い、節水管理と夜間の保温に努める。
ばか苗		茎葉の徒長および淡黄色化	高温での管理(27～30℃)は発生を助長します。確認された場合は、罹病苗を抜き取り、苗床周辺には 放置せず適切に処分する 。
苗立枯細菌病		右図参照	高温多湿下での育苗管理をしない。

- ※ **好ガレ液剤の使用回数は2回以内。**
- ※ **好ガレ液剤+ダコニール 1000 又はダコレート水和剤いずれかを使う場合は合わせて2回以内。**
- ※ **好ガレエースM液剤の使用回数は1回。**
- ※ **好ガレ液剤とダコニール 1000 の使用間隔は、5 日以上空けましょう。**
- ※ **特別栽培米は、あらかじめ決められた薬剤しか使用できません。**
- ◎ **密苗、密播は播種量が多く病害が出やすいため、積極的な換気を行い高温多湿に注意しましょう。**

☆本田初期害虫の防除対応について

本田初期害虫の防除対策として、登録のある薬剤を規定量使用しましょう。
※特別栽培米は種類や地域により使用薬剤が指定されています。使用する前に各営農課へ薬剤名・使用量・使用時期を確認して下さい。

○注意事項

- (1) 軟弱な苗には、薬害の恐れがあるので使用しないで下さい。
- (2) 薬剤抵抗性害虫・耐性菌の出現を防ぐため、使用量を必ず守りましょう。
- (3) 箱施用剤施用の際、葉に付着した薬剤は箱の中に払い落としましょう。
- (4) **育苗の後作に出荷用の園芸作物を計画している場合は、必ずほ場等で施用して下さい。**

技、其の六 田植えはあせらず、好天日に、適正な植付け深で！

- 田植えは好天日を選び行いましょう。
- 播種した時期と下表を参考に田植時期を計画しましょう。
- 田植えは初期生育確保の観点から、つや姫→つくばSD2号→雪若丸→はえぬき→ひとめぼれの順に行いましょう。
- 苗を老化させないように、計画的な田植えを行い、初期生育確保を図りましょう。
(目標：2.2～2.5 葉)

作業名	平坦部	中山間
播種	4 / 11～18	4 / 18～24
田植	5 / 8～	5 / 15～

※低温や強風下での田植えは、活着遅延、初期生育不良を招く恐れがあります。

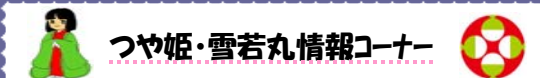
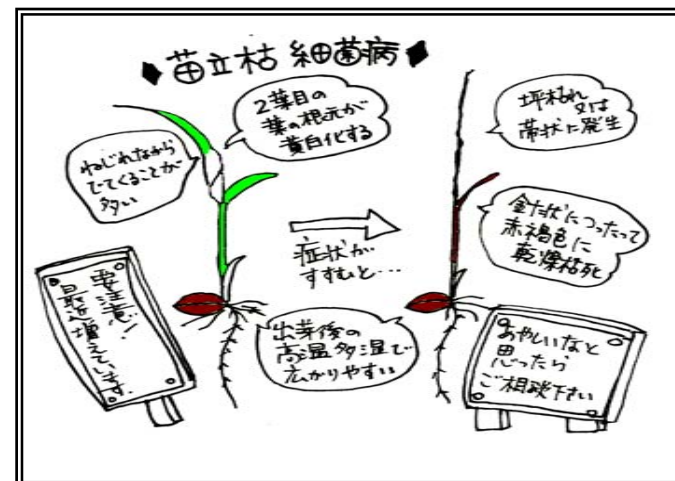
必ず天候の回復を待って田植えを行いましょう。
また、深植えは分けつを抑制し、初期茎数確保の妨げとなるので**適正な植付け深(目標：2～3 cm程度)**とするよう留意しましょう。

技、其の七 品種に応じた栽植密度を！

良食味米を生産するためには、適正な粒数を確保することが重要です。有効茎数(穂数)を早めに確保するため、田植え時に株数、植込本数を考慮しましょう。

○栽植本数の目安

品種名	株数/坪当	株数/m ² 当	植込本数/株当
つくばSD2号	60株	18株	4～5本
つや姫	70株	21株	4～5本
はえぬき・雪若丸 ひとめぼれ	70株	21株	5～6本



- 乾土効果で初期生育を確保！**
耕起は「つや姫」「雪若丸」のほ場から行ないましょう。耕深は15cmを目安に、耕起後は十分に乾かし乾土効果を高めましょう。
- しっかり育苗で健やかな苗に！**
苗の良し悪しで、活着力、初期生育に差がつきます。こまめな管理で健苗を田んぼに送り出しましょう。
「雪若丸」は苗丈が「はえぬき」より短いので出芽時の管理に留意しましょう。

**6月10日までは「春季農作業事故防止運動強化期間」です。
農作業事故が最も多い季節です！安全第一をお願いします！！**

☆農薬を使用する際は、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意して下さい。

★次号の発行は5月11日です！